信　条
本会は、同窓生相互の連絡を密にして親睦を深め、社会学部及び法政大学の発展のために活動することを目的とする。（会則第3条）

法政大学社会学部 同窓会報

Vol.55

法政大学社会学部同窓会
発行人　髙橋 敏（同窓会会長）
編集人　吉川新吾（会報委員長）
〒194-0298　東京都町田市相原町4342
法政大学4号館社会学部A棟11階
TEL・FAX　042-783-2421
http://www.hoseisoc-dousoukai.jp/
郵便振替口座　02東京00140-1-63762

「HOSEIミュージアム」 今春、市ケ谷にオープン

九段北校舎のミュージアム・コア（イメージ）

2020年春、法政大学市ケ谷キャンパスの新しい施設が誕生します。法政大学の歴史を学び、大学のこれからに役立てる「HOSEI ミュージアム」です。14年から開始した長期ビジョン「HOSEI2030」のもとで進めてきた、法政大学のブランディング施策の一つで、卒業生にとっては、母校の価値を再確認させてくれる交流拠点になりそうです。大学史の調査・研究が専門で、ミュージアムの開設準備を担当する、古俣達郎さん（04年３月卒、鈴木智道ゼミ）に狙いと概要を聞きました。

母校の歴史、文化や個性を学ぶ場

―HOSEIミュージアムが開設されるとのことですが、ミュージアム設置はいつ頃から検討されていたのでしょうか。

古俣　15年10月からです。14年にはじまった長期ビジョン「HOSEI2030」のもと、「法政大学ミュージアム（仮称）」検討委員会が設置され、本格的な検討が開始されました。法政大学には多くの学部や研究所がありますので、委員会を設置したばかりの頃は、各研究所などが所蔵する資料の調査からはじめ、先生方や研究所の方々へヒアリングにうかがい、コンセプトづくりを行ってきました。ワークショップを開催して、教員と職員が一緒になって「法政らしさ」を語り合ったこともありました。そうした取り組みを積み重ねることによって、「人・地球社会の持続可能性のための実験型ミュージアム」というHOSEIミュージアムのコンセプトが次第にみえてきました。

―ミュージアムの展示内容について、準備作業はどのように進めていったのですか。

古俣　展示原案の作成は、委員会での議論のもとに、委員会の副委員長を務めていただいた奥武則先生（元社会学部教授）にお願いしました。その後、展示テーマごとに個別のワーキンググループを設置して、展示のストーリーや資料の選定などを行いました。また、当初からデジタルを活用することを強みとして打ち出していましたので、デジタルを活用した展示やデジタルアーカイブに関する調査を行いました。

―ミュージアムの場所と開館時期は。

古俣　ミュージアムの中核的機能を担う「ミュージアム・コア」の開館は20年春を予定しています。場所は市ケ谷キャンパスに新たに設けた九段北校舎の1階です。

―「ミュージアム・コア」での展示はどのような内容になりますか。

古俣　「ミュージアム・コア」は二つの展示ゾーンに分かれており、1つは「大学史ゾーン」で、そこではタッチパネル式の平面ディスプレイを設置し、創立者の薩埵（さった）正邦や戦後の総長である大内兵衛先生など法政大学の「フロントランナー」たちの生涯や取り組み、エピソードを紹介する内容です。もう一つの展示ゾーンは、「テーマ展示ゾーン」という名称で、本学の教育や研究の強みを表すテーマをめぐって展示を行います。

「HOSEIスポーツの原点」を特集

―20年春の開館とのことですが、今後の展示計画は決まっていますか。

古俣　20年はちょうどオリンピックイヤーですので、「HOSEIスポーツの原点」と題して、法政スポーツの原点を形作った人々を特集した展示を開催する予定です。また、法政大学が1920年に法律学校から大学に昇格して百周年にもあたりますので、近現代の東京の姿を法政大学の歴史を通して再考する記念展示を企画中です。

―体育会の活躍は校友の楽しみですから、期待しています。その他に開館後に計画していることなどはありますか。

古俣　一つは市ケ谷以外の多摩、小金井の各キャンパスにミュージアムのサテライトを設置することです。それから先程もお話したデジタルアーカイブの充実です。法政の卒業生は日本だけでなく、世界中で活躍されていますので、ミュージアムに直接来られない方々にもウェブ上で本学の貴重な資料をご覧いただけるよう、コンテンツ（情報の中身）を充実していきたいと思っております。

「HOSEIミュージアム」のロゴマーク

HOSEIミュージアム
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

インターネットで全世界どこからでも利用できるデジタルアーカイブ（イメージ）

校友が集う場所に

―今、卒業生の話がありましたが、実施していた募金の成果はいかがでしたか。

古俣　校友の皆様を中心に多くの方々にご協力いただき、目標金額を早期に達成することができました。本当に感謝の言葉もございません。ミュージアムの活動を充実するため、大切に活用させていただきたいと思っております。

―ミュージアムへの校友の期待感があらわれたのでしょうね。ミュージアムは校友が集う場所となるといいですね。

古俣　そうですね。展示では豊富なコンテンツを盛り込みましたし、企画展も開催されますので、何度来ていただいても楽しんでいただけると思います。

―聞き手
杉原典男
（80年3月卒、中野収ゼミ）

「つなげる同窓会」にシフトチェンジ

社会学部同窓会会長　**髙橋　敏**

社会学部同窓会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。令和2年が皆様にとって良いお年でありますよう心からお祈り申し上げます。

最初に、昨年6月8日、社会学部同窓会創立30周年記念総会「おかげさまで30年　母校を愛するあなたに会いたい」開催へのご協力に感謝申し上げます。当日は、おじさん・おばさん卒業生は知らない市ケ谷周辺「校舎　お散歩会」、定期総会、記念対談、懇親会が実施されました。記念イベントでは、藤田真文社会学部長と音楽グループ「いきものがかり」メンバーで社会学部06年卒の山下穂尊氏が、「自由を生き抜く〝社会学部〟の実践知」をテーマに対談を行い、在校生約150名を含む200名以上がお二人の楽しいお話に聞き入りました。

さて、同窓会では近年、駅伝応援と新年会、春・秋六大学野球応援、大人のグルメ散歩などのイベント定例化に努め、同時にメルマガでの情報発信強化を行っています。しかしながら、新たな参加者増に至っていない現状があります。「令和」の時流に合わせて、「参加者を集める同窓会」から、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等を活用した「つなげる同窓会」にシフトチェンジし、併せて運営方法等も見直していく必要があると思っております。本年も会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

移転から35年、多摩の将来を展望する年

社会学部長
同窓会名誉会長　**藤田　真文**

社会学部卒業生のみなさま、同窓会会員のみなさま、新年あけましておめでとうございます。昨年、法政大学は志願者数が4年連続10万人を超え、併願をカウントしない「実志願者数」では全国1位となりました。

社会学部では、新カリキュラム「3学科10コース制」が、学科ごとの学問的な専門性と特質をより活かし、社会課題の解決に向かう学生を育てることを目標にして、2018年度からスタートしました。カリキュラム導入の2年目も、お陰様で大きな混乱もなく学生に定着しつつあるように思われます。

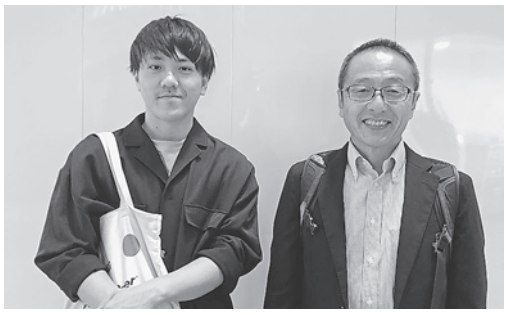
社会学部はあと数年で創立70年を迎えます。ただ、創立時はもちろんのこと多摩移転の経緯を知る現役教員も少なくなりました。84年に社会学部が多摩キャンパスに移転してから、早いもので35年が経過します。19年度には、多摩キャンパスの将来像を検討する「多摩将来計画委員会」が作られ、基本構想の策定に取りかかっています。

多摩移転当時、私たちの先輩教職員が目指したのは、先端的な教育と研究の拠点作りでした。移転当時の精神を継承しながら、時代のニーズに応える形で多摩キャンパスをどう再開発していくか。都心から遠い、通学時間がかかるというマイナスを乗り越え、多摩を再び輝けるキャンパスとすべく教職員一同努力していきます。引き続きお力添えをいただければ幸いです。

学生インタビュー

興味を持ったものは、何でもやってみたい

大河内　友晴　さん（社会政策科学科1年）



髙橋敏同窓会会長と大河内友晴さん

電車内の会話がきっかけで出会った社会学部生の大河内さん。会報発送や総会の受付など、ボランティアで快く協力してくれています。興味を持ったものは何でもやってみたいと語る頼もしい後輩を紹介します。（聞き手＝髙橋敏、構成＝赤池慎一）

ウェブ系のビジネスで起業できたら……

――私たちとの出会いは、まったくの偶然でしたね。

はい。自宅に帰ろうと電車に乗っていると、偶然、「法政の多摩キャンパスは遠いね」という会話が耳に入り、「確かにそうだな」と共感して聞いていたら、降りる駅が同じだったので思わず声をかけてしまいました。それが髙橋会長と役員の方との出会いで、意気投合して駅前の居酒屋に誘っていただきました（笑）。

――社会学部に入るまではどんな青春時代を？

中学時代からサッカーをやっていました。高校はサッカーの強豪校に行きたいと思って埼玉栄に入って、3年の夏の終わりまでサッカー漬けの毎日でした。

――なぜ社会学部に？

僕は、興味を持ったものはとりあえず何でもやってみたいと思うタイプです。社会学は広い視点からいろいろな見方ができる学問だという印象を持っていました。経済学や法律学のように絞り込まれないところが自分に合っていると思い、社会学部を選びました。

――入ってからの感想は？

いまはプログラミングに興味があり、そのスキルを身につけようと勉強を始めています。僕は社会政策科学科ですが、メディア社会学科の講義も受けられるので、興味のある科目を受けてみたいと思っています。社会学部には個性的な先生も多く、面白いです。

――サークルやバイトは？

大学ではスポーツ系はもういいと思い、軽音サークルに入って、ドラムやキーボードをやっています。バイトは、週末にカラオケ店でスタッフをしています。

――卒業後の抱負を。

プログラミングのスキルを身につけて、そのスキルを生かして将来的にはウェブ系のビジネスで起業できたらいいと思っています。

――同窓会にひと言。

友人や知り合いを通じて大学の情報を共有したり、同窓会の先輩方と交流してネットワークを広げられたら、僕たちの学生生活も同窓会の活動も、ともに活性化できていいですね。

教授登場

社会課題の解決めざす社会学部の真髄

ソーシャルメディア、ローカルメディア

藤代　裕之　准教授（「ソーシャルメディア論」「ジャーナリズム論」担当）

今年度の藤代 裕之ゼミの皆さん。笑顔の1枚

今回は、時代の最先端を行く社会学部に3つある学科のうちメディア社会学科で「ソーシャルメディア論」「ジャーナリズム論」を研究分野にしている准教授の藤代裕之氏の登場です。この夏には熱がこもった集中特別授業（9月17日から3日間）も実施しました。

（取材・山田幹夫）

◇　◇　◇

集中授業は「大学の授業って、こんなにおもしろかったんだ」と実感する意欲的な講義の連続でした。地方新聞社、地方放送局と広告会社（沖縄タイムス社、西日本新聞社、中国新聞社、高知新聞社に北海道テレビ放送、博報堂ケトル）の協力により、それぞれの現場での仕事内容や働く中での思いや、時に葛藤などを生々しく聴くことができる濃厚な内容でした。

3日間、朝9時半から夕方5時頃まで入れ替わり講師が登場する体力勝負ですが、講義を聞き、藤代氏の誘導もあり質問し、終われば感想を書く約40人の学生の熱心な姿にも感心しました。

◆郷里の徳島で新聞記者を皮きりに多彩な経歴

藤代裕之氏は1973年徳島生まれ。広島大学文学部哲学科卒業からの経歴は多彩です。

立教大学21世紀社会デザイン研究科前期修了。徳島新聞記者として、司法・警察、地方自治などを取材。2005年にNTTレゾナントに転職し、新サービス立ち上げやニュースデスク、新規サービス開発担当を経て11年の東日本大震災の被災地岩手県大槌町で情報発信とメディア作りのワークショップに取り組み、地域メディア「大槌みらい新聞」を立ち上げる。同年から、ジャーナリストが「個」として切磋琢磨しあう場を提供する日本ジャーナリスト教育センターの代表運営委員。

そして、6年前の13年から法政大学社会学部メディア社会学科准教授に。

専門は、ソーシャルメディア論、ジャーナリズム論。ゼミのテーマは、ソーシャルメディア時代の「伝え方」の研究と実践。

著書に『ネットメディア覇権戦争　偽ニュースはなぜ生まれたか』（光文社）など。編著に『ソーシャルメディア論つながりを再設計する』（青弓社）『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』（ハーベスト出版、第29回地方出版文化功労賞・島根本大賞2016）など。

◆法政大学の地方出身学生は現在、3割程度の割合

藤代氏は、地域に根ざして地域の課題解決を実践するローカルジャーナリズムのこれまでにない広がりを指摘し、「現在の法政の学生は、以前と違って、地方出身者は3割程度ですから、地方での実際に触れることが難しい状況です」と、この集中授業の意図を語ります。

「いろいろな先生方の協力で実現できたことも強調したいです」とも。

◆社会問題の解決へ「伝え方」を考える実践も

平日の授業は週に5回、2年から4年生のゼミには12人が登録中です。

法政の社会学部は「人間について、社会について深く考え、現代の社会問題を鋭く捉え、適切な解決法を考え出す能力を育成」と学部案内に紹介されており、そのためのアプローチとして「社会政策科学科」「社会学科」含めて3学科があります。

藤代氏は最近の学生の傾向として「まじめな半面、幅がないと言うか、いろいろな角度から見るという視点も欲しい」と指摘します。そして、社会の課題の解決へ向けて、単なる情報の受け手ではなく、「柔軟な発想で伝え方を工夫し、メディアで解決する」人材を育てたいと、奮闘の最中です。

▼ソーシャルメディアとは？

インターネット上で、誰もが参加できる情報発信技術を用いて、個人による情報発信や人の結びつきを利用した情報流通など、社会的相互性を通じて広がっていくメディアのこと。双方向のコミュニケーションができることが特長。

【訂正】

前号の「社会学部同窓会報」第54号（2019年6月1日発行）の2面記事「教授登場」の写真説明で「世界中の『働く人』に囲まれて」とあるのは、「マラヤ大学の特別講義で学生さんたちとともに」の誤りでした。訂正します。

〈ミニ情報〉

在校生通信員を募集

「社会学部の今」を同窓生の皆さんに知らせてくれる在校生通信員を募集中。

先輩たちに伝えたい話題をリアルタイムに発信して下さい。精査の上、会報で紹介したり、SNS上に掲出します。

全国規模の対応力でスピーディーに出張買取!!
古美術・骨董品・絵画・茶道具買取
その他ジャンルにこだわらず、お気軽にご相談ください。

遺品整理　荷物の整理　家の建替
LINE査定&無料査定
全国無料 出張買取
宅配買取・店頭持込・メール買取

えんや 社長 遠藤 大祐
● 査定士:遠藤大祐
● 法政二高、法政大学社会学部卒
● 法政二高 野球部OB
● 東京商工会議所会員
● 東京美術倶楽部　桃李会会員
● 東京美術倶楽部　親和会会員
● 全国美術商連合会会員
法政大学社会学部卒(土生ゼミOB)
美術品・骨董品買取専門店 えんや
0120-808-896
えんや　買取
LINE@ @enya.kaitori
渋谷区広尾3-4-1シャレール広尾1F

いよいよ オリンピックイヤー！

スポーツ法政、東京五輪へ

東京オリンピック・パラリンピックの年になりました。“法政我が母校”から世界にはばたく選手が多くいます。厳しい練習、伸び悩む日々、精神的重圧との闘い等、さまざまな壁を乗り越えて結果を出してきた選手たちを紹介します。（中正美）　※写真提供：法政大学陸上競技部

４００mハードルの雄姿　豊田将樹選手（スポーツ健康学部４年）

○陸上競技
カタール・ドーハで行われた、第17回世界陸上選手権大会４００mハードルに出場した豊田将樹選手（スポーツ健康学部４年）。「自分の持ち味でもある後半で巻き返そうと思ったが、うまくレース運びができなかった。」とレースを振り返りました。準決勝２組８着。２０１９年最も成長した選手の一人です。

○アーティスティックスイミング・水泳
マーメイドカップにおいて入賞した柳澤明希選手（スポーツ健康学部４年）は、オリンピック代表としてすでに合宿・海外遠征等で研鑽を積み、晴れて代表の座をつかんでいます。

○サッカー
鹿島学園高校から法政に入学した上田綺世選手（３年で中退・鹿島アントラーズ入団）、東京オリンピック世代のエース、次世代の日本代表エースとして期待されています。身体能力の高さと正確なシュート技術を併せ持つ、オールラウンダーなストライカー。

○フェンシング・フルーレ
２０１７世界選手権・第29回ユニバーシアードで活躍した敷根崇裕選手（法学部４年）。２０１９アジア選手権男子フルーレ個人戦にて優勝。ここでのインタビューで「オリンピック金メダルを目指して頑張っていきたい」とコメントしています。

○陸上競技
第59回実業団・学生対抗陸上競技大会４００mハードルで高田一就選手（スポーツ健康学部４年）が優勝。ラストイヤーに開花した選手として話題になり、今後の抱負の中でオリンピック出場を目指すと語っています。

大学からの補助増額 多摩の学生の負担は大幅減

副学長・常務理事（社会学部教授）
増田　正人

常務理事、多摩担当副学長の増田正人です。早いもので常務理事として2期目に入り、その2期目もほぼ3年が過ぎました。法政大学初の「中期経営計画」（４年間の計画）は、２０１９年から予算を伴って具体的な取り組みが始められてきています。

その中でも、今年3月に開館予定の法政ミュージアムは、大学ブランディングの柱の一つになっていくものです。先に取得した九段北校舎にコアスペースを作り、3キャンパスが連携するデジタルミュージアムとして開館します。最初の特別展は、東京オリンピックを記念して、「法政スポーツ」をテーマにして行います。ご寄付のお願いもしていますので、ぜひ、ご協力ください。また、市ヶ谷キャンパスの建替え工事もほぼ終わり、あとは外構工事を残すのみになってきました。残された工事も来年３月にはすべて終わります。

田中総長の発信力に加えて、様々な取り組みを基礎に、法政大学全体としての社会的評価が高まってきていることをうれしく思っています。

多摩キャンパスについては、多摩将来計画委員会をスタートさせ、本格的な多摩キャンパスの未来像づくりを進めています。予算の裏付けを伴って、新しいキャンパス作りをスタートさせることが私の今年の大きな役目になると思っています。学生生活面では、新しく始めた割安な学期定期券も定着をしてきました。大学からの補助も大きく増えたので、多摩に通う学生の負担は大幅に減りました。さらに、相原駅からの「連接（連節）バス」（大量輸送のために車体が2連以上につながっているバス）の導入を来年春実施目指して進めています。また、６号館食堂の改修を行うとともに事業者（生協）への補助を増やし、安価で美味しく、かつ安全な食環境を実現するように改めてきました。

卒業生の皆さん、ぜひ、また多摩の地に足を運んでみてください。

まだまだ不十分なことばかりですが、本年もどうぞよろしくお願いします。

生まれ変わった市ケ谷キャンパス

市ケ谷キャンパスは55・58年館の解体がほぼ終わり、新しいキャンパス空間を感じることができるようになっています。大学の広報によると、「歴史ある『外濠』『靖国神社』とキャンパスの歴史を物語る『大内山庭園』を緑を介して繋げる計画」とのことです。２０１９年春から使用されている「大内山校舎」の外観には55・58年館のデザインが使われ、校舎の「記憶」を継承しています。かつて嘉悦学園だった富士見坂校舎から中央広場、正門をつなぐ新しいキャンパス軸の実現で「キャンパスの一体感を創出」するとのことです。

大学HPは便利

法政大学のホームページ（ＨＰ）をご覧になっていますか。大学の歴史や折々のエピソード、卒業生の活躍、スポーツ分野の活躍、田中優子総長をはじめ先生方のメッセージなど、注目の情報が満載の情報の宝庫です。インターネット検索で「法政大学」と打ち込めばすぐ見つかります。増田正人さんのリポートのキーワード、長期ビジョン「ＨＯＳＥＩ２０３０」の特設サイトも必見。皆さま、ぜひご参照ください。

校友会新年会は 1月26日

一般社団法人法政大学校友会主催「オール法政新年を祝う会」は１月26日、東京・お台場のグランドニッコー東京　台場で開きます。参加申し込みは社会学部同窓会事務局か、お近くの役員まで。「第19回オール法政ゴルフ大会“総長杯”」は９月７日、キングフィールズゴルフクラブで。「第28回法政大学全国卒業生の集い（栃木大会）」は10月23日～25日に開催します。

鈴木・大保会計事務所
公認会計士 税理士 鈴木　和男（旧姓和田）
事務所〒176-0012 東京都練馬区豊玉 5-7-4
TEL03-3993-2301　FAX.03-3392-8823
自宅〒335-0034 埼玉県戸田市笹目 3-5-10 TEL048-421-5852
1954 年 3 月卒　長谷川博ゼミ

法政大学社会学部同窓会
幹事 藤永　正順
自宅〒733-0815 広島市西区己斐上 3-3-28
TEL. 082-272-5534
1957 年 3 月卒　中島正ゼミ

法政大学社会学部同窓会
常任顧問 中山　重臣
自宅〒242-0008 神奈川県大和市中央林間 4-29-14
TEL・FAX. 046-275-3022
1961 年 3 月卒　土生長穂ゼミ

村串　仁三郎　法政大学名誉教授　著
『高度成長期日本の国立公園』
――自然保護と開発の激突を中心に――
（時潮社、3500円）
1959 年 3 月卒　長谷川博ゼミⅡ部

NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会会員グリーンセイバー
法政大学社会学部同窓会
土屋　幸雄
自宅〒194-0203 東京都町田市図師町 2224-4
TEL・FAX. 042-793-5550
1960 年 3 月卒　長谷川博ゼミ

東産業株式会社
取締役副社長 河村　勝弘
Mobile 080-3259-4708
（応用経済学科卒の方、連絡乞う）
1963年 3 月卒、土生長穂ゼミ

すき焼き・しゃぶしゃぶ・フランス料理
創業明治５年 伝統の味と風情をご堪能下さい
吉（よし）　寅（とら）
吉崎　秀夫
埼玉県川越市元町 1-9-3（市役所通り）
TEL. 049-222-0102
1961 年 3 月卒　逸見重雄ゼミ

法政大学社会学部同窓会
常任理事 中村　一廣
自宅〒277-0086 千葉県柏市永楽台 3-8-3
1961 年 3 月卒　増島宏ゼミ

東西南北

会員の短信から

※卒業年は3月時点を記載しています。

【北海道】

札幌市
81年卒　山下　英俊

栢野ゼミの同級生と連絡とりたい。（栢野晴夫ゼミ）

【福島県】

会津若松市
73年卒　半田　徹

69年入学です。この年の入学生の多くは苦い思い出を持っているのではないでしょうか？　東大では初めて入学試験がなかった年です。医学部に端を発した「東大闘争」が過激化し、安田講堂に立てこもり入学試験が中止になりました。

法大では入学試験は行われましたが、一部学生の暴力化で6月には大学当局はついに本校をロックアウトします。以降数年にわたってロックアウトは続けられました。そのため大学には入ったものの、授業のない日が長く続くことになってしまいました。社会背景には長く続き泥沼化したベトナム戦争や、70年の「日米安保の自動延長」がありました。また学内にも様々な矛盾が噴出した時期でもありました。

私は古希（70歳）を迎えました。学生時代に勉強に励むことができなかった私ですが、その後、社会問題に関心が深まり独学で本を読み漁るようになりました。その結果「主権」という言葉に強い関心を持つようになりました。今は会津若松市で「主権者の会　会津」という市民団体で市民活動を続けています。フェイスブックで連載しています。検索してください。

（混乱期のため所属ゼミなし）

【埼玉県】

越谷市
58年卒　横山　隆一

19年度版「宝塚おとめ」。表紙・望海風斗（雪組トップ）。法政女子(国際)高出。

（村山重忠ゼミ）

入間郡
74年卒　星野　雄次

会報第54号「平野先生とは何者だったか」を読んで。70年代初頭にしてクールでスタイリッシュ。平野先生を想う。69年館の研究室の窓越しにシュプレヒコールが聞こえる中、外濠の向こう側から届いた出前の鴨南蛮そばをすすりながら、〝メットの色ってファッションだから…〟と、クールに語り、834番教室「社会工学」講義の最中、勝新太郎の岡田以蔵、三島由紀夫の田中新兵衛と、映画『人斬り』のキャスティングの妙をスパッと斬る先生のスタイリッシュな姿。スパイシーな学生時代の活力源となりました。

（平野秀秋ゼミ）

【千葉県】

習志野市
61年卒　村上　良三

いつもお世話さまです。年次総会なかなか参加できず申し訳ありません。

（拓植秀臣ゼミ）

【東京都】

世田谷区
70年卒　千葉　恵子

会報楽しく拝見しております。

（長谷川博ゼミ）

北区
89年卒　下田　暁

最近、仕事をしていてとても強く感じることがあります。果たして自分は20代、30代の頃、どこまで本気で仕事に熱中していたか?!と言うことです。現在フィンテック系の会社役員をしていますが、まだまだ立ち上げフェーズに近く、かなり強烈に忙しいのです。体力的にも精神的にもきつい状態が続いています。50代になった身にはなかなか辛いのですが、充実感もあります。でも、20代の頃、ここまで真剣に立ち向かったかな?!　とふと考えることもあります。若いみなさんを見ていると、もっと、後一歩、頑張っておけばよかったなーと思うと同時に、もうちょっと頑張ろう！　と励まされたりもします。みなさんもあと一歩の勇気を奮ってみてはいかがでしょう！　摩擦が起きることもあるかもしれないけど、きっと良い経験になると思うので、後悔しないように、自分の今にもう一度チャレンジしませんか?!

（土生長穂ゼミ）

葛飾区
63年卒　河村　勝弘

ご苦労様。会員数減少は何かが欠けているからと思います！／ご苦労様です。私も来年（2020年）2月、80歳です。

（土生長穂ゼミ）

町田市
78年卒　佐藤　連

悲願である「箱根駅伝」総合初優勝をめざして頑張ってください。大いに期待しています。また、社会学部の発展を祈念いたします。

（田沼肇ゼミ）

国分寺市
73年卒　風間　道夫

平野秀秋先生に初めてお会いしたのは71年、大学3年生の時。映画、音楽、そして、いわゆるメディア論まで、その視界の広さに驚いた。工業高専卒の私にとっては別世界の人だった。でも、その視界の広さを少しでも見習うことにした。楽しい人生を送れているのは先生のおかげだと感謝している。

（平野秀秋ゼミ）

狛江市
63年卒　鈴木　暁

前号の社会学部同窓会報に、『外濠の青春』寄贈のお礼が掲載されていましたが、私も文学部の同窓生からの紹介で19年4月に読みました。編著者の三階泰子氏は大学院社会学修士課程（田沼肇ゼミ）修了。60年安保での活動の思い出をインタビュー形式で15人ほど紹介、その半分は当時の社会学部生でした。私は（60年安保闘争の）参加者の一人にすぎなかったものの大変懐かしく読みました。

（増島宏ゼミ）

西東京市
78年卒　関口　和子

19年5月に社会学部社会学科78年卒業のクラスの友人5人で札幌ツアーを楽しみました。この旅行は18年9月に起きた北海道胆振東部地震を被災した札幌在住のメンバーに会い慰労の言葉をかけるという趣旨で企画しました。私たちは74年4月の入学以来つかず離れず、ずっと近況を取り交すことを怠らずに交流を続けてきました。東京から3人、長野から1人駆けつけ、札幌在住の友人の案内で、カーリング体験、札幌ビール園、小樽散策、そして、道庁や植物園訪問と友人の企画していたプランを全て滞りなく消化しました。二泊三日の中日が30度を超える天候でしたが、初夏の晴天に恵まれ、満足なツアーとなりました。因みに、私ですが、初日のカーリング教室中氷上で手をつき手首負傷をしてしまいました。メンバーに心配をかけてしまいました。お騒がせして申し訳無かったと反省しています。帰宅後受診し治療し全快しました。余談ですがスポーツ傷害保険を使いしっかり医療費は補償していただきました。これも友人が傷害保険付きの教室に申し込んでおいてくれたおかげです。持つべきはしっかりものの友達です。次回はどこへ行こうかと今からワクワクしています。

（金山行孝ゼミ）

【神奈川県】

横浜市
68年卒　松田　滋充

公立中学校を定年退職後、教育行政や教育現場の経験を生かし、将来、教職をめざす学生たちのために、清泉女子大学の教職課程で教科教育法や演習などの指導（非常勤講師）に携わり、70歳で教育現場での活動を終えました。以後、生きる意欲や喜びを与えてくれる活力源として、退職校長会の役員など、ボランティア活動や、月3回程度、仲間たちとゴルフを楽しんでおります。

（芝田進午ゼミ）

横浜市
04年卒　大多和　浩一

令和元年6月1日現在、変わりなし。

（吉村真子ゼミ）

横浜市
67年大学院修士卒
三階　泰子

ごぶさたしています。先日さしあげた「外濠の青春」10冊、どのように活用されていますか。先生と若い学生さんに読んでいただき、今の日本と自分の生き方を考えて頂きたく参考にしていただければ、幸いです。

（田沼肇ゼミ）

横浜市
78年卒　武井　美雄

地方自治に関する学生への対応があればお声をかけてください。

（北川隆吉ゼミ）

横浜市
81年卒　山路　一夫

新規入会です。よろしくお願い致します。

（硬式野球部）

横浜市
84年卒　鈴木　康功

前回の「社会学部同窓会報」（第54号）で秋田成就先生が昨年（18年）ご逝去されていたのを知りました。私のゼミの恩師で81～84年まで「労働法」の薫陶を受けました。当時の「秋田ゼミ」は伝統的に少数精鋭のゼミを自認されておりました。2年次は「入門ゼミ」で法学一般や時事問題等をご指導頂きました。当時はSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）もなくゼミの課題には「図書館」での資料や「新聞記事」に専ら依存していました。当時の課題だった「新聞記事」のスクラップはアナログながら今現在も形を変えて継続しております。少数ゼミだったので毎回、先生の研究室で秋田先生自らコーヒーを入れて頂き、コーヒーを飲みながらのゼミは独特の家族的雰囲気を醸し出し「秋田ゼミ」の特徴でもありました。3年次、4年次の「ゼミ合宿」での模擬裁判そして「卒論」思い出は尽きません。

私は社会学部を卒業し秋田先生に学んだ「労働法」を糧として社会人となり勤務ながら「社会保険労務士」となり、人並みの試練を乗り越え今日まで生きてきました。私は今回、秋田先生の訃報に接し、あらためて秋田先生からご指導頂いたことを誇りに思い、僭越ながら秋田先生からご教示頂いた「労働法」精神たる「労働者保護」と「労働者の地位の向上」に向けて今後も微力ながら尽力することをお誓い申し上げます。秋田先生ありがとうございました（合掌）。

（秋田成就ゼミ）

【富山県】

富山市
75年卒　山本　剛

7年前、悪性リンパ腫発症3度の再発。昨年10月に担当医にもう出来る事はない、亡くなった時の準備をした方がいいと患者を見下した言い方に思わず切れそうになりました。明らかに患者へのパワハラでした。医師の言葉で励まされる事もあれば地獄に堕ちる事もあります。話し方次第です。今は肺炎の治療で呼吸科の医師にみてもらってますが少しでも良くしようと治療する姿に目からウロコでした。その日暮らしですが孫たちに会うのを楽しみに生きて行きたいと思います。

（金山行孝ゼミ）

【大阪府】

三島郡
56年卒　数土　清治

学友の多くが物故者となり淋しい限りです。私も86歳、近くお迎えがくることでしょう。（長谷川博ゼミ）

新入正会員の紹介

（受付期間　19年5月～10月）

石塚　洋子（81年卒）
山路　一夫（81年卒）
峯　　正和（81年卒）
山下　英俊（81年卒）
吉田　慎吾（81年卒）
内海　正洋（81年卒）
平間　　緑（86年卒）
松田　滋充（67年卒）
田中　孝平（14年卒）

法政大学社会学部同窓会
幹事　山田　道生
〒017-0803　秋田県大館市東台2-1-64
TEL・FAX. 0186-43-2980
1963年3月卒　笠原千鶴ゼミ

法政大学社会学部同窓会
常任理事　濵名　達
自宅〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井988
TEL・FAX. 042-597-0135
1965年3月卒　北川隆吉ゼミ

法政大学社会学部同窓会
理事　塩田　利明
〒347-0012　埼玉県加須市多門寺1153
TEL　0480-68-5118
1967年3月卒　土生長穂ゼミ

シャカイ人 OB・OG

杉野服飾大学特任教授／
ファッションジャーナリスト
アナログフィルター
『Journal Cubocci』編集長
USEN『encoremode』コントリビューティングエディター

久保　雅裕さん

86年３月卒、田沼肇ゼミ

ファッションの最前線を追って 今も年4回のパリコレ出張

86年社会学科卒業時は、「社会に働きかけて、社会を少しでも前に進める事が仕事というものだ」と決意も高く、地域医療を担い、「差額ベッド料をとらない」というポリシーの都内の総合病院に医療事務をするつもりで入職した。ところが配属はいきなり医師人事。しかも卒後研修医をリクルートするという仕事だった。戸惑いつつ、47都道府県を飛び回り、多くの医学生と生き方や医療の在り方などを話しながら、いつしか天職のような気持ちになっていた。ところが４年を経て内勤の医事課に異動となり、実は「外に出て人と接し、共に働く仲間を増やすことが楽しかったのか」と気づかされた。

そんな時、ファッション業界専門紙「繊研新聞」で働く大学の先輩から誘いを受け、「外回りで人と接する仕事なら何でも」と27歳で転職した。それから22年間をこの会社で過ごしたが、新媒体や見本市の立ち上げなど新規事業の開発を得意としてきた。また欧州各国政府の担当を任されたこともあり、欧米を飛び回る生活に。さらにパリ支局を立ち上げ、フランスのパリコレを見学する研修旅行もサポートしている。

私が学生だった頃と比べて、デジタルネイティブの今の学生を見るとシュリンクする日本のファッション業界でも飛躍の可能性を大いに感じる時があるとすれば、ネットによる情報の選別が無意識に視野狭窄を生まないか、それに伴い権力に対するチェック機能が弱くなっていないか。大学で学んだ倫理観と批判精神は、今も私の体の中に染みついている。

生活も味わった。医療機関では全国を、新聞社では欧米を行脚するという不思議な導きを感じたものだ。またフランスでの常識を超える体験は、生き方や暮らし方に対する考えも一変させられた。

退職後、大手セレクトショップのマーケティングディレクターを経て、それまでの経験を生かしてフリーランスのファッションジャーナリストとなった。現在はUSENのラジオ番組MCや大学の仕事と共に、年４回のパリコレ出張をこなす生活を送っており、学生にとっては貴重な経験となっている。

私論公論

日本サッカーの発展 64年東京五輪が起爆剤

中村　一廣（61年卒、増島宏ゼミ）

社会学部を卒業して入社した会社の４年目。待望の東京五輪が開催されました。サッカーの日本対ガーナ戦（10月16日）の入場券を当時の上司から渡され、駒沢陸上競技場に行きました。日本チームを応援しようと心躍らせながら入って応援席を見渡したら空席が目立ち少しがっかりしました。応援の仕方は現在とは比較できないほど紳士的でした。それでも、当時有名だった杉山隆一選手（ＭＦ）や八重垣茂生選手（ＦＷ）がゴールを決めたときなどは盛り上がりました。結果は２対３で負けましたが、その後、予選はぎりぎり突破し、準々決勝で敗退しました。しかし、全試合で40万人以上の観客を集めたことに驚きました。

今の我が家のすぐそばが柏レイソルのスタジアム。昨年までＪ１、今年はＪ２ですが、試合のある日は応援の仕方が半端ではなく、観客数は１万人以上が当たり前です。孫４人のうち２人はサッカーファンで中学生の男孫は部活もサッカー部、地元出身の酒井宏樹選手が柏レイソルから全日本メンバーになり現在フランスのチームで活躍しているので、小中学生のサッカーチームは数えきれないほどあります。我々の時代の「蹴球」から「サッカー」への変貌は私が見た東京五輪が起爆剤だと思われてなりません。

現在の駒沢陸上競技場

随想

故平野秀秋先生のお墓参りと活動報告

桑原　政昭　76年卒

平野秀秋ゼミOB・OGの有志８人は、11月17日、2018年11月16日に亡くなられた先生のお墓参りを行いました。一行は、神奈川県平塚市乗蓮寺にお参りした後、駅前の中華料理屋で先生を偲びました。

参加者は73年から88年卒までで、参加はできませんでしたが、山口、広島、新潟、米沢からも平野ゼミ卒業生のメッセージが届けられました。年齢や出身も違う同士が、一堂に会し歓談できるのも、平野先生のご縁のおかげだと、改めて感じた次第です。

以下は、平野ゼミ有志の2019年の活動報告です。

○５月18日　薔薇と蕎麦の会（東京都調布市神代植物公園）佐藤他５名。
○５月26日　六大学野球「法明戦」（神宮球場）風間他３名　７対８の屈辱的敗戦。
○７月７日　お墓参りと故平野先生宅（神奈川県平塚市）牧野他２名
○９月15日　横田基地友好祭と武蔵陵墓地ツアー　星野他３名
○10月６日　六大学野球「法明戦」（神宮球場）岡田他３名　２対１で６戦６勝勝ち点３！。

※ゼミ卒業生はご連絡を。

「社会学部同窓会報」紙面で交流しましょう！
「交流の広場」への投稿を呼びかけます。

近況や在学中の思い出、身の回りの出来事への雑感、ご意見などを自由に投稿してください。投稿の際は、①居住地（都道府県・市町村まで）、②氏名、③卒業年（３月時点）、④所属していたゼミ、⑤ご連絡先（携帯電話番号など）、を明記してください。

【訃報】

ご遺族の方から次の会員のご逝去のご連絡がありました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

西脇　和彦（74年卒）
18年10月29日ご逝去

Chuō
学校法人中央学園
中央福祉医療専門学校
理事長 校長　宮杉　早苗江
本部〒323-0022 栃木県小山市駅東通り 2-24-28
TEL.0285-24-1571　FAX.0285-24-2522
E-mail：msanae@peach.ocn.ne.jp
http://www.chuo-fukushiiryou.ac.jp
1970年３月卒　田沼肇ゼミ

法政大学評議員
ミサワホーム株式会社
取締役会長　竹中　宣雄
〒163-0833 東京都新宿区西新宿二丁目４番1号
TEL03-3345-1111（代）
1972年３月卒 中野ゼミ

株式会社 コロンバン
代表取締役 社長　小澤　俊文
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-31-19
TEL.03-3409-2301（代）
1975年３月卒　庄司興吉ゼミ

法政大学名誉教授
ＮＰＯサポートセンター理事
法政大学社会学部同窓会
副会長　山岸　秀雄
携帯090-1461-1525
hideoyamagishi７@gmail.com
1969年３月卒　佐藤毅ゼミ

＊自由と進歩、言論・報道の自由は命
＊団塊世代 OB、それなりに努力中です
フリーランス・ジャーナリスト
日本ジャーナリスト会議　会員
山田　幹夫
1975年３月卒　芝田進午ゼミ

追悼　壽福眞美先生

時代の課題に正面から向き合い行動する精神
私たちは受け継ぎます。

壽福眞美名誉教授（元社会学部教授）が19年7月31日、逝去されました。享年72歳でした。社会学部棟のエレベーターホールで元気なお姿を拝見し、ご挨拶させていただいたのはついこの間のこと。社会学部同窓会役員一同、突然の訃報には大変驚きました。壽福先生は学部同窓会の意義を理解され、常に支援してくださいました。

壽福教授会執行部の「主任」時代、私の誇り

「本日、壽福眞美先生の告別式に参列しました。闘病生活を続ける中でも、7月上旬にシンポジウムで基調講演をされるなど、最後まで研究者としての人生を全うされました。壽福先生は社会学部長を務められた時に、役員選挙をめぐる学内闘争の中で毅然として法政大学の民主主義を守る論陣を張られました。」「私は壽福執行部の主任として、その過程に関われたことを誇りに思います。」

（藤田真文　社会学部長）

「大学の再生可能エネルギー転換を」最期の叱咤のお言葉

壽福眞美先生は昨年、名誉教授となられたと同時に、私財を大学に寄付されて「ゼック（ZERO・ENERGY・CAMPUS）」というプロジェクトを立ち上げられました。大学のエネルギーを再生可能なエネルギーに転換していく研究プロジェクトです。私は東京大学先端科学技術研究センターから異動して全面的に参画することになりました。先生が逝去された今年の7月31日の8時間前に「ゼックをどう具体化するのか進展せず、困っています。」というメールが届きました。

翌朝、先生の訃報を聞いて驚いたとともにこのメールが先生の最期の叱咤の言葉だと知りました。

先生は、私が86年に法政大学社会学部に入学して以来30年以上のお付き合いで、進学、結婚、就職、ことあるごとに相談してきました。学生との間に垣根をつくらず父親のように自然体で接してくれる恩師でした。今でも見守っていただいている気がしてなりません。

（法政大学気候変動・エネルギー政策研究所　特任研究員　島田昭仁＝92年卒、壽福眞美ゼミ）

田中優子総長誕生　先生のおかげ

壽福先生は84年4月～86年3月、教授会副主任として多摩移転当初の様々な課題の解決に奔走。06年4月～08年3月の学部長の任にあった時期には、当時の理事会による総長選出方法の改正提案に毅然と反対し、教職員参加型の総長選挙を守り抜くうえで大きな役割を果たしてこられました。その動きは全学に波及し法政大学の民主的運営や「自由と進歩」の伝統を堅持する立場の増田壽男総長が実現し、その任期終了後の総長を決める選挙では、壽福先生が当時社会学部長であった田中優子教授の総長候補者推薦人代表となり、田中優子総長が誕生しました。もし、総長選出方法が教職員の直接選挙でない方法に変わってしまっていたら、今日の法政大学はありえなかったかもしれません。

東日本大震災と福島第一原発事故以降は、社会科学者として現代社会が直面する課題にどう向き合い、専門性を生かして市民と共にどう行動すべきか。連携して動いた舩橋晴俊先生と共に、大切なことを私たちに示してくれたように思います。壽福先生、ありがとうございました。

（社会学部同窓会　会報委員長　吉川新吾＝87年卒、田中義久ゼミ）

学生ニーズ見極め
「就活支援セミナー」再開へ
教授会執行部と定例懇談会

9月23日、教授会執行部と定例懇談会が開催されました。6月に開いた学部同窓会30周年記念行事の総括と今後の協力体制の確認などについて、意見交換が行われました。

藤田真文社会学部長から社会学部の近況として、新カリキュラム2年目が大きな混乱なく順調に推移していること、多摩キャンパスの今後を考える委員会が立ち上がり、予算化の目途を付けた後、21年度から施設整備を含めた実施が視野に入っていることなどが報告されました。

髙橋敏会長からは、在校生の多数の参加により大成功であった学部同窓会30周年記念行事について、社会学部OB「いきものがかり」の山下穂尊氏との対談を担っていただいた藤田真文学部長へのお礼と、総会にまつわるいくつかのエピソードが報告されました。

校友会年度同期会の解散後の所属組織選びでは社会学部同窓会への移籍が1人に留まっている現状を伝え、若い卒業生や4年生への先生方からの声かけが大切、と強調しました。

諸般の事情から19年度は中止となった多摩3学部合同の「就活支援セミナー」についても、今後の実施にあたり意見交換を行いました。藤田学部長から「学生と年齢が近い卒業後2、3年目の先輩、もしくは30歳代のリクルーターの話が有効ではないか」とご提案をいただきました。また、今回は欠席された大﨑教授会主任からは「『働く』とはどういうことか、考えさせる情報提供型の社会学部らしいアプローチもあってよいのでは」というご提案があったことも報告されました。髙橋会長からは「気軽に参加できるカフェスタイルの就活支援機会ができないだろうか」というアイデアが出されると、越部教授会副主任は「コンセプトはとても良い。お茶を飲みながらの方式は参加しやすいと思う」という意見が出されました。

土橋教授会主任から現在、キャリアセンターでも就職に関する様々なセミナーが実施されている状況についてご指摘をいただき、社会学部独自の特徴を出すのは難しい面もあるため、就活支援セミナーについては、学生のニーズを調査して来年度の実施を目指すことになりました。

今回の懇談会には、教授会執行部から藤田真文社会学部長、土橋臣吾教授会主任、越部清美教授会副主任。同窓会側からは髙橋敏会長、赤池慎一副会長、依田素味常任理事、吉川新吾会報編集担当が出席しました。

（依田素味）

※　※

（お知らせ）社会学部教員の訃報

矢部恒彦准教授（専攻＝都市景観論）が19年10月、逝去されました。54歳でした。現職教員の在職中の死亡は14年の舩橋晴俊教授以来のことです。謹んでお悔やみ申し上げます。

順位表　全日程終了　11/04

		試	勝	敗	分	勝点	勝率
1	慶大	11	9	2	0	4	.818
2	法大	10	8	2	0	4	.800
3	早大	13	7	6	0	3	.538
4	立大	13	6	6	1	3	.500
5	明大	13	4	8	1	1	.333
6	東大	10	0	10	0	0	.000

六大学野球で応援イベント

社会学部同窓会は母校のスポーツ応援を同窓生の懇親の機会として重視しています。19年秋は「秋季リーグ六大学野球応援イベント」を10月6日、日曜日に開催しました。相手は前日に勝っている明治。試合は2対1の僅差で法政が勝利しました。残念ながら昼過ぎまで続いた雨のため参加者は少なかったのですが、開幕6連勝という結果に、法政側応援席から歓喜の校歌が神宮球場に響き渡りました。

今期は慶應大学がリーグ優勝。法政大学は2位となり、2020年春のリーグ戦に期待が高まっています。HPやメールマガジンで同窓会応援日を発信中です。神宮の応援席でお会いしましょう。

10月6日、対明治戦で盛り上がる法政側応援席

法政大学社会学部同窓会
副会長　中　正美
TEL.090-8586-1242
E-mail:qqkt5de9k@mocha.ocn.ne.jp
1975年卒

法政大学社会学部同窓会
会長　髙橋　敏
TEL. 090-1802-2908
E-mail：binta0185@gmail.com
1978年3月卒　金山行孝ゼミ

☆憲法9条改憲NO!
☆法政大学Ⅱ部9条の会　世話人
司法書士・行政書士　木村事務所
司法書士　木村　誠
〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-7 翔和多町ビル2階
TEL03-3256-7058　FAX. 03-3251-2205
E-mail：cau30510@pop21.odn.ne.jp
1977年3月卒　土生長穂ゼミ

法政大学社会学部同窓会
副会長　赤池　慎一
携帯　090-5585-1049
akaike@mri.biglobe.ne.jp
1986年3月卒　田中義久ゼミ

55/58　きおくプロジェクト
日本ジャーナリスト会議　会員
吉川 新吾
E-mail：shingo-y@festa.ocn.ne.jp
1987年3月卒　田中義久ゼミ

特定非営利活動法人（NPO法人）教育サポートセンターNIRE
代表
特別支援教育士（S.E.N.S）
中塚 史行
〒142-0053　東京都品川区中延5-6-14第一亀田ビル2F
TEL/FAX　03-3784-0450　メール　info@npo-nire.org
1995年3月卒　土生長穂ゼミ / 法政大学社会学部同窓会理事

社会学部同窓会報に名刺広告を出しませんか？
広告料金は一枠5,000円（税込み）です。
※配置は原則として卒業年順です。会報委員会にお任せください。
※お申し込みは同窓会事務局まで。
所属・職名、氏名、住所、電話番号、メールアドレス、3月時点卒業年、出身ゼミ名、一言メッセージをお知らせください。

社会学部同窓会創立30周年記念総会

おかげさまで30年
母校を愛するあなたに会いたい！

記念対談：
・社会学部長藤田真文先生
・山下穂尊氏（いきものがかり）

記念イベントは在校生も参加

2019年度の定期総会は午後1時、富士見ゲートG403教室で開催、約50人の社会学部卒業生が参加しました。18年度の活動・決算報告、19年度の活動方針案・予算案が承認されました。その後、同会場で記念イベントを実施、社会学部長の藤田真文先生と06年社会学部卒業生の山下穂尊氏（音楽グループ「いきものがかり」メンバー）が、「自由を生き抜く〝社会学部〟の実践知」をテーマに対談を行いました。在校生約150人を含む200人以上が参加し、楽しいお話に聞き入りました。

午後3時10分からは、ボアソナードタワー「スタッフクラブ」で懇親会を開きました。来賓・社会学部現役学生、業生・社会学部卒業生、約50人が参加し、親しく語らう会となりました。最後は、恒例の校歌を歌いお開きとなり、来年の再会を誓いました。

記念イベント 在校生の感想から

山下さんは「プロになるにはプロになろうとしないとなることはできない」という言葉をおっしゃっていました。これは、プロになることに限った事ではなく、何をするにも行動しないと何も出来ないということで、様々なことに共通することだと思います。山下さんはプロになるために相当な努力をしてきていて、同じように、やりたいことに対して、努力を惜しまないでやっていたから、日本の代表的なアーティストになれたのだと改めて感じました。そして、何かを成し遂げる上で行動するということがとても大切なことだと今回の対談で学ぶことが出来ました。

（1年　善岡沙弥香）

いきものがかり山下さんのお話をお聞きして、世界を旅したり、他と異なるバンドメンバー編成にしたりと一般の人と違う発想、考え、行動力があると思った。山下さんは音楽が好きでそれが仕事になっている。また、私たちはいきものがかりさんの曲で元気になったり、励まされたりしている。そのように自分の好きなことを仕事にして、さらにそれが他の誰かのためになるというのは素晴らしいことだと思う。自分もそんな大人になれるように山下さんのように何でも挑戦して、自分のやりたいことを見つけて、努力していこうと思った。そして、それをどう社会に還元できるかまで考えていきたい。

（1年　原みなみ）

市ケ谷周辺お散歩会

総会の前に、「おじさん・おばさん卒業生は知らない市ケ谷周辺お散歩会」を行いました。

ガイドは総長室企画・秘書課大学史担当の杉原典男さん（80年卒、中野収ゼミ）です。参加した13人は、外濠校舎、大内山校舎、ボアソナードタワー、一口坂法政グッズショップと巡りました。

祝30周年記念総会

法政大学総長からのメッセージ

社会学部同窓会の皆さま

同窓会創立30周年、誠におめでとうございます。

本日は、新校舎の見学、総会、「いきものがかり」の山下さんと藤田学部長の記念対談、懇親会と大変盛りだくさんの企画が準備されているとうかがいました。校務でおうかがいできず申し訳ありませんが、社会学部らしい自由闊達な会となることと願っています。

皆さまの母校法政大学も、14年から着手しました長期ビジョンHOSEI2030のもとで、「法政大学憲章」や「ダイバーシティ宣言」を制定し、18年度からは、4年ごとの中期経営計画にもとづく大学運営もスタートしました。こうした改革を背景に、本学への志願者数は増え、今春の入試では、志願者の実数を表す「実志願者数」で日本一位になり、大変注目される大学となっております。

本学の中でも社会学部は、私立大学初の社会学部という成り立ちに表れているように、法政大学憲章で掲げる「自由を生き抜く実践知」をとりわけよく体現する、フロントランナーの学部です。これからも、卒業生の皆様がその〝自由を生き抜く〟姿を通して、学生たちに多くの刺激を与えてくださいますよう、お願い申し上げます。

社会学部同窓会が、本学とともに今後益々のご発展をされますよう、心より祈念致します。

（19年6月8日、法政大学総長　田中　優子）

寄付者ご芳名

19年5月～19年10月末

（敬称略）

皆様から寄せられましたご厚志を心から感謝いたします。会の貴重な運営費として活用させていただきます。

90口　新村　武彦
　　小泉　俊輔
11口　宇佐美　貴
10口　安井　洸治
9口　杉本　昇
7口　笠原　邦丸
　　古川　育男
　　吉田　慎吾
　　鍛治　健治
　　山田　道生
6口　濵名　達
　　河村　勝弘
　　野口　敏雄
5口　澁澤　知宏
4口　村上　良三
　　水上　久忠
　　近藤　栄一
3口　植田　孝良
　　森　基祐
2口　井上　秀枝
　　内田　昌宏
　　高野　忍
　　石橋　弘
　　太田　昭郎
　　春山　忠男
　　近藤　栄一
　　川浪　佐賀男
　　柳澤　昭吉
　　栗原　政實
　　小川　美知子
　　小泉　栄一
　　土屋　幸雄
　　榊原　初声
　　榎本　幹雄
　　宮本　徹・悦子
1口　川村　賢一
　　湯川　新
　　下田　初子
　　福田　伸夫
　　依田　素味
　　中條　務
　　小林　恭久
　　原島　孝子
　　岩崎　久美子
　　森田　靖也
　　会田　良
　　徳富　義一
　　杉原　典男
　　脇本　剛史
　　神　順子
　　芥川　雅男
　　山重　美登士
　　甲南　一郎
　　金子　久美子
　　大元　健

法政大学社会学部同窓会員の皆さんへ
在学生の皆さんへ

第96回箱根駅伝を応援しよう！

法政大学社会学部同窓会
2020年新年会同時開催！

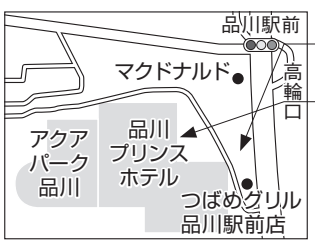
2020箱根駅伝応援・同窓会新年会のお知らせ

■　期日　2020年1月3日(金)

【応援】
1　集合時刻　12時30分
2　集合場所　品川駅前
（法政大学ののぼり旗が目印）

【新年会】
1　新年会開始時刻　14時00分
2　新年会会場　品川プリンスホテル
3　新年会会費　5,000円(在学生は半額)
4　新年会申し込み　12月16日(月)まで下記の事務局に電話かＦＡＸ、又はメールでご連絡ください。
mail：shagaku_dousoukai@yahoo.co.jp

■　当日問い合わせ　副会長　中正美
携帯番号　090-8586-1242



ＪＲ品川駅高輪口　この付近で応援しています旗を持っている役員に声をかけてください

新年会会場　品川プリンスホテルメインタワー

社会学部同窓会事務局
東京都町田市相原町4342社会学部棟11階
電話・ＦＡＸ：042-783-2421(月・水)
http://www.hoseisoc-dousoukai.jp

大原社研の100年とこれから
～社会学部同窓会報に寄せて～

法政大学大原社会問題研究所　所長　鈴木　玲

大原社会問題研究所（大原社研）は、今から100年前、1919年2月9日に大阪で創立された。創設者は、岡山県倉敷の事業家の大原孫三郎氏である。大原氏は、倉敷紡績などの事業を営むかたわら、大原美術館、倉敷労働科学研究所（現大原記念労働科学研究所）などを設立した異色の事業家で、社会問題解決のための調査・研究が必要であると考え社会問題の研究所の設立を決意したとされている。

37年2月に大原氏からの財政援助の打ち切りを契機に、研究所は東京に移転した。戦時下・終戦直後の厳しい時代を経て、研究所は49年に法政大学と合併し、法政大学大原社会問題研究所となった。84年4月大学生から、法政大学社会学部、経済学部が都心の市ヶ谷キャンパスから多摩キャンパスに移転することとなったが、大原社研も両学部からの要請を受けて86年3月、多摩キャンパスに移転した。また、13年4月から、法政大学の別組織であった環境アーカイブズが研究所に統合された。

大原社研は、『日本労働年鑑』、『大原社会問題研究所雑誌』（月刊）の刊行と所蔵資料の整理と公開、シンポジウムやイベントの開催を主な事業として活動している。また、研究所は利用者の資格を問わない専門図書館としての機能も果たしている。研究所は、戦前期からの労働運動や社会運動関係の文献・資料を所蔵しており、労働関係アーカイブズとしては主要な機関の一つとして評価を受けている。所蔵資料のなかには、「協調会文庫」のような社会学部の関係が深いものもある。同文庫は、社会学部の前身である中央労働学園の旧蔵資料である（同学園は、戦後GHQの命令で解散した協調会の資産を受け継いで設立された）。

大原社研は、長い間労働問題を中心に研究活動を行ってきた。今後も、労働問題は重要なテーマであるが、環境、貧困、ジェンダーなどの現代的な課題にも取り組んでいく所存である。

記念行事でスピーチする鈴木所長

大原社研と社会学部の100年の歩み

西暦	和暦	大原社研	社会学部
大正デモクラシー　1910～1920年代　期間については諸説ある			
1919	大正8年	2月9日、岡山県倉敷の大原孫三郎によって大阪・天王寺で創設。大原氏は倉敷紡績などの事業を営む一方、大原美術館、倉敷労働科学研究所などを設立した異色の実業家。初代所長は東京帝国大学経済学部教授の高野岩三郎。彼の下に櫛田民蔵、権田保之助、森戸辰男、大内兵衛、久留間鮫造、宇野弘蔵、笠信太郎ら研究者が集まる。	財団法人協調会発足。協調会は渋沢栄一・徳川家達らを中心に設立された労資協調のための研究調査・社会事業団体。
満州事変（1931年）　15年戦争のはじまり			
1937	昭和12年	東京市淀橋区（現新宿）に移転	
太平洋戦争（1941～1945年）			
1947	昭和22年		協調会の伝統を継承して中央労働学園専門学校発足
1949	昭和24年	法政大学と合併	学制改革で中央労働学園大学となる
1951	昭和26年	財団法人法政大学社会問題研究所設立	
1952	昭和27年		法政大学が中央労働学園大学を吸収合併して社会学部設立（麻布校舎）
1957	昭和32年		応用経済学科設置（1学部1学科）
1960	昭和35年		社会学科設置（1学部2学科）
1984	昭和59年		1年次入学生から順次、多摩移転
1986	昭和61年	3月、多摩移転。 4月、財団法人解散、法政大学付置研究所となる	

出典：『法政大学社会学部50年誌』（2002年）、髙橋彦博『協調会から中央労働学園へ　法政大学社会学部の前史』（法政大学社会学部学会『社会志林』2003年3月）、『法政大学と戦後五〇年』（2004年）、『法政大学大原社会問題研究所案内』（2019年2月）
※年表作成は社会学部同窓会会報委員会

1970年の事件から半世紀
「Mさんを支える会」50年の集い」

古い話だが、法政大学の歴史は60年代から70年前後、学園暴力の嵐が吹き荒れていた。バリケードのロックアウトなどで休講も続いた。今はないII部（夜間部）でもそうだった。

1970年1月21日の夜、授業中、日文科のM氏は鉄パイプなどで滅多打ちにされ、ひん死状態での開頭手術に耐え、入退院を繰り返し、障害者手帳をもつ身になった。「僕は一生、結婚も働くこともできなくなった」。彼はあれからほぼ50年の19年10月27日、市ヶ谷のアルカディア市ケ谷（私学会館）に同窓会を兼ねた80人が集まり、うち社会学部OB・OGは20人余。五十嵐仁法政大学名誉教授・元社会学部教授から激励を兼ねた挨拶があり、元大学職員の方も参加された。法政大学の校歌を合唱し、「四国（M氏が住む高知県）へ様子を見に行くからね」と伝えて別れた。理不尽な暴力に反対したクラスの自治会活動や、ゼミでの学びは、その後の個々人の生き方を方向付けたが、あの日のことを忘れることはない！（70年II部社会学部入学、芝田進午ゼミ、大畑きぬ代）

大橋弘著
『ストライキ消滅・「スト権奪還スト」とは何だったのか』

石坂悦男名誉教授から最近刊行された社会学部卒業生の著書の紹介がありました。ご紹介します。

64年卒業の大橋弘さん著『ストライキ消滅・「スト権奪還スト」とは何だったのか』（風媒社、19年7月）です。大橋さんは元毎日新聞労働担当記者。75年11月、日本ほぼ全域で、JRの前身、国鉄の労働組合、国労などがストライキ権の確立を要求してスト行われた社会学部卒業生の著書の紹介がありました。ご紹介します。

64年卒業の大橋弘さん著『ストライキ消滅・「スト権奪還スト」とは何だったのか』（風媒社、19年7月）です。大橋さんは元毎日新聞労働担当記者。75年11月、日本ほぼ全域で、JRの前身、国鉄の労働組合、国労などがストライキを敢行、8日間も鉄道がストップする事態を引き起こしました。その歴史的意味を振り返る力作です。『週刊エコノミスト』掲載に加筆したもの。本体価格1800円。

一般社団法人 法政大学校友会

終身会員募集中！（終身会員 30,000円）　詳しくはお問い合わせ下さい。

http://www.hoseinet.or.jp　法政大学校友会　検索

会　長　佐々木郁夫
副会長　豊田信哉　小林清宣　石塚　護　田﨑　稔
監事　矢部豊　山嵜正俊　発地敏彦　松井哲也

事務局　〒102-0073　東京都千代田区九段北3-2-3　九段校舎4階
TEL 03-3264-1831　FAX 03-3264-4770　E-Mail：jimukyoku@hoseinet.or.jp